

てんかん診療支援医の策定に向けた調査

研究分担者：神戸大学大学院医学研究科脳神経内科学分野教授 松本理器

静岡てんかん・神経医療センター院長 高橋幸利

研究要旨

てんかんの包括的診療には、一次～三次診療の連携が重要であるが、現状では三次診療を担うてんかん学会専門医と一次診療を担う一般診療医の架け橋である二次診療医—てんかん診療支援医が不足している。厚生労働行政との綿密な連携を視野に入れ、てんかん学会・関連学会合同でのてんかん診療支援医の在り方・策定方針について調査した。

A.研究目的

てんかんの包括的診療には、一次・二次・三次診療の連携が重要であるが、現状では三次診療を担うてんかん学会専門医と一次診療を担う一般診療医の架け橋である二次診療医が不足している。二次診療を担うてんかん診療支援医の在り方・策定方針を調査する。

B.研究方法

関連のコア学会員である、山本班内の小児（神経）科、脳神経内科、脳神経外科、精神神経科の班員との会議や山本班全体会議で討議を行い、在り方・策定方針を調査した。

（倫理面への配慮）

会議を通じて調査するため、該当しない。

C.研究結果

認知症診療など包括診療が開始されている領域を参考にして、電子会議や全体会議で討議を行った。てんかん診療を担う学会：コア学会（神経学会・脳神経外科学会・精神神経学会・小児神経学会）や関連学会と合同で、てんかん診療支援医のワーキンググループを立ち上げ、在り方・資格認定・資格更新などについて審議してゆく方針とした。

D.考察

一次診療を担う一般診療医の架け橋である二次診療医—てんかん診療支援医が不足して

おり、てんかん診療支援医の策定は、国民病とも言えるてんかんの診療・治療にはかかせない。認知症地域医療支援事業をモデルとして、厚生労働省行政と綿密な連携のもと、関連学会合同で二次診療医を策定し、育成してゆくことが重要である。

E.結論

てんかん二次診療の担い手としての、てんかん診療支援医の在り方・策定方針について調査した。厚生労働省との連携のもと、関連学会で合同のてんかん診療支援医の策定が望まれる。

F.健康危険情報

該当なし

G.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし